



# ヒットマン リサーチエンス

2025年/韓国映画

配給：アルパトロス・フィルム、ローソン・ユナイテッドシネマ/119分

2025 (令和7) 年6月21日鑑賞

テアトル梅田

監督・脚本：チェ・ウオンソ  
 ブ  
 出演：クォン・サンウ/チョ  
 ン・ジュノ/ファン  
 ウ・スルヘ/イ・イギ  
 ヨン/キム・ソンオ/  
 イ・ジウォン/チェ・  
 ジウ

## 👁️👁️ みどころ

CIA や MI6 をネタにした「スパイもの」はスリル満点で面白いに決まっているが、そこにはリアルさが不可欠！ジェームズ・ボンドは女好きでユーモアいっぱいだが、それでもやるべき時はきっちり！

韓国には大韓民国国家情報院 (NIS) があり、孤児の少年ジュンはここで暗殺要員として急成長したそうだが、その活躍ぶりが『ヒットマン エージェント：ジュン』(20年)で認められた結果、シリーズ第2作が登場！

「愛する家族と祖国を守るため 落ちぶれたマンガ家は、ペンを銃に持ち替えるー。」そうだが、その顛末は？徹頭徹尾、単純極まりない、こんなマンガみたいなスパイものは、いい加減うんざり！？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

◆アメリカにはCIA (国家中央情報局) があり、イギリスにはMI6があるが、日本にはそれがない。もっとも、市川雷蔵が主演した映画『陸軍中野学校』(66年)を観れば、日本にも戦前には“それらしきスパイ組織”があったようだが、戦後80年間も平和で民主的な社会が続いてきた日本には、そんなものは不要！？

◆他方、『ヒットマン エージェント：ジュン』(20年)によれば、朝鮮戦争後も南北対立が続いた韓国には、大韓民国国家情報院 (NIS) があるらしい。同作では、クォン・サンウ演じるジュンは、国家情報院に拾われ、暗殺要員として育てられた孤児の少年。そんなジュンは、瞬間に対テロ保安局のエースに急成長！なるほど、なるほど・・・。

CIA ネタのスパイものも、MI6 ネタのスパイものもシリアスな本格的なものが多いが、『キングスマン』(14年) (『シネマ37』213頁)、『キングスマン：ゴールデン・サークル』(17年) (『シネマ41』未掲載)、『キングスマン：ファースト・エージェント』(20年) (『シネマ50』101頁) は例外的に娯楽作品だった。

◆しかして、本作は大ヒットした『ヒットマン エージェント：ジュン』シリーズの第2作。私はそれを全然知らなかったが、売れない漫画家のジュン、鬼教官のドッキュ（チョン・ジュノ）、若きエージェントのチョル（イ・イギョン）という3人の人気キャラクターはそのまま継続しているらしい。

私が2002年から出版している『SHOW-HEY シネマルーム』は57作になった。その内容は20数年の間に充実してきているが、一貫して変わらないのは売れないこと。それと同じように処女作のウェブ漫画『暗殺要員 ジュン』は大ヒットしたものの、その後のシリーズは酷評続きで全く売れないらしいから大変だ。

◆そこで、自暴自棄になったジュンが酔った勢いで書いたのが、暗殺要員時代の国家機密をネタにした新作だが、これが配信し終わると大ヒットしたからわからないものだ。思わぬ結果にジュンは大喜びだが、ヤバいのは、漫画を読んだ国家情報院とテロリストたちにジュンが生きていることがバレってしまったこと。そのため、かつてジュンから手痛い目に合わされ、今は刑務所に収容されているテロリストたちが大挙して脱出し、ジュンの命を狙うことに……。私は、それはそれとして面白いストーリーだと思うものの、本作ではそれが冒頭からマンガチックに描かれていくため、何ともはや……。

◆本作のチェ・ウォンソプ監督は公式ホームページの中で、「コメディ映画ならではのエネルギーを放つ映画になればいいな」と語っている。また、「どうしたらもっとおもしろおかしくできるか」をひたすら追求したとも語っている。同監督は、主要登場人物たちに3つの次元を与えた上で、俳優たちに自由な解釈で演じてもらい、思う存分にそれぞれのキャラクターを表現してもらったそうだ。

その狙いはわかるものの、こんな単純極まりないコメディ映画のバカバカしさに、私はうんざり……。

2025（令和7）年6月28日記